

令和2年度

入学試験問題

国語

※試験開始のチャイムや合図があるまで開かないこと

〔注意事項〕

1. 問題用紙は、12ページまでである。
2. 解答は、すべて別紙の解答用紙の所定欄に記入すること。
3. 解答用紙への記入は、試験開始後に記入すること。
4. 解答用紙には出身中学校・受験番号・氏名を必ず記入すること。
5. 試験開始の30分後から退場はできるが、解答用紙は必ず裏返して退場すること。
6. 問題用紙は、各自で持ち帰ること。

常磐高等学校

次は、太郎さんが【東京2020大会の歴史的意義に関するホームページ】を見て、祖父と話をしている場面である。これらを読んで、後の各問に答えよ。

- ▷ 前回の東京1964オリンピックは、戦後日本の復興の象徴として、またその後の日本の経済成長や科学技術の発展の出発点として、多くの人々に記憶されている。また、東京1964パラリンピックは、日本の障がいのある人のスポーツを通じた社会参加を促す契機となった大会である。
- ▷ 経済的に成熟し、これから世界が抱えるであろう多くの課題にいち早く直面している日本・東京は、率先して世界に対して解決策を提示し、新たな未来を示す必要がある。
- ▷ 50年後、100年後に東京2020大会を振り返った時に、精神的な豊かさを求める社会、持続可能な社会の実現に向けて、文化や社会、価値観が変わるきっかけになったと国内外で評価される大会にしたい。

(東京2020大会開会式・閉会式に関する基本コンセプト最終報告
第一章 東京2020大会の歴史的意義のホームページによる。一部改変)



太郎

オリンピックの背景には、経済分野や科学分野での社会的な発展があるんだね。僕たちはこのような点にも注目する必要があるね。

それによって人々の間に広く **ア** したものがあるんだよ。例えば東京1964オリンピックによって、新幹線や高速道路、コンピューター技術が発達していったよ。



祖父

問一 率先の漢字の読みを、平仮名で書け。

問二 豊かさの品詞と、次の1〜4の——線を施した語の品詞が同じものを一つ選び、その番号を書け。

- 1 親元を離れて両親のありがたみを感じる。
- 2 公園に大きな木が数多く立っている。
- 3 創立記念品を全員に配る。
- 4 彼は柔和な感じがする人だ。

問三 契機の類義語として最も適当なものを、次の1〜4のうちから一つ選び、その番号を書け。

- 1 打破
- 2 結束
- 3 発端
- 4 需要

問四 **ア**には、「広く一般に行きわたること」という意味の語句が入る。その二字を漢字で楷書で書け。

問五 精神的の「精」を楷書で書いた場合の総画数と、次の1〜4の行書の漢字を楷書で書いた場合の総画数が同じものを一つ選び、その番号を書け。

- 1 懐
- 2 稼
- 3 電
- 4 旗

二

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

私は大学の講義のほか、一般向けの講演も行なっており、幅広く質問を受ける機会があります。メディアからの取材もあります。そこで、本質的なものに触れる深い質問ができる人、表面的な部分にとらわれた浅い質問しかできない人がいます。

浅い質問には、「それはこうです」と答えて、はいおしまい。簡単です。そこからさらに話が広がったり内容が深まったりすることはあまりありません。

深い質問の場合は、こちらの頭も回転させなければなりません。質問が刺激となって思考が深まります。その答えによって質問者の考えも深まるし、実りの多い時間となります。

映画を見た感想やニュースに対するコメントにしても、聞く人が刺激される面白い話ができる人と、みんなが言っているような一般的なことしか言えない人がいます。

浅い人と深い人。どちらの人の話を聞きたいか、聞くまでもありませんね。

では、その浅い・深いはどこから来ているのでしょうか。

それは一言で言えば、教養です。

教養とは、雑学や豆知識のようなものではありません。自分の中に取り込んで統合し、血肉となるような幅広い知識です。

カギとなるのは、物事の「本質」を捉えて理解することです。

バラバラとした知識がたくさんあっても、それを総合的に使いこなすことができないのでは意味がない。単なる「物知り」は「深い人」ではないのです。教養が人格や人生にまで生きている人が「深い人」です。

深い人になるには、読書ほど適したものはありません。

本を読むことで知識を深め、思考を深め、人格を深めることができます。

たとえば西郷隆盛は「深い人」です。西郷が生きた幕末・明治時代から人格者として慕われ、ものすごく人望がありました。亡くなってからも多くの人が西郷に惹かれて研究し、時代ごとに評価されてきました。現代も人気は衰えていません。

それでは、生まれたときから人格者で、「深い人」だったのかというと、そういうわけではないでしょう。西郷は多くの本を読んできました。とくに影響を受けたのは儒学者佐藤一斎の『言志四録』です。流された島でも、これを熟読し、とくに心に残った101の言葉を抜き出し、常に読み返していたと言います。座右の銘としていた「敬天愛人」もそこから生まれたものです。常に本を読み、自らを培っていったのです。

コミュニケーションにも浅い・深いがあります。

表面的なやりとりで終始し、信頼感も生まれにくいのが浅いコミュニケーション。コンビニで飲み物を買ったときに、店員さんと目も合わさずに「お願いします」がありがとうございました」と言葉を交わしているのだからコミュニケーションには違いありませんが、ものすごく浅いレベルのものであります。そのコミュニケーションが記憶に残ることはないでしょう。

しかし、同じようなシーンでも深いコミュニケーションは可能です。私は、コンビニで外国人の店員さんと話をする間柄になって、彼女が彼女と別れたということまで聞いていました。相手の状況を認識して、心のこもった言葉をかければ途端に深くなります。「深い部分に触れた」感覚はいいものです。短い会話でも、それが1日を気分よく過ごすきっかけになるかもしれません。

家族、恋人、友人であっても、常に深いコミュニケーションができていたとは限りません。深い部分にある心理、感情の動きに触れることなく、表面ばかりを見ていけば浅いコミュニケーションになってしまいます。愛情を感じるのには、深いコミュニケーションができています。

コミュニケーション能力の根底には「認識力」があります。

相手の状況や感情、言動を認識する。言動それぞれに、その場の文脈というものがありません。

「期待しているよ」という言葉が、「あなたを信頼しているから、ぜひ頑張ってくださいね」という意味のこともあるかもしれません。

人の「複雑な感情」を瞬時に理解するのも認識力です。嬉しい、悲しい、悔しいと単純に言えない、表現しにくい感情。そうしたものを消化したり感じ取ったりすることができれば、より深いコミュニケーションにつながるでしょう。

文学にはそういった複雑な感情が描かれています。文学を読むことで、複雑な感情を感じ取ったり言語化したりする能力を身につけることができます。

さらに、言葉で応答したり働きかける際にも、認識力は重要です。

言いたいことがうまく表現できないとき、それは自分の中にあるモヤモヤした思考を言語化できていないのかもしれないかもしれません。

(齊藤孝『読書する人だけがたどり着ける場所』による。一部改変)

(注) 西郷隆盛…幕末から明治維新期の政治家。薩摩藩の指導者。軍人。 佐藤一斎…中国古来の政治・道徳を学んだ儒学者。

『言志四録』…佐藤一斎が「自」の思想を述べた書。

「敬天愛人」…天を敬い、人を愛するということ。

問一 左の表は、本文に述べられている浅い人と深い人の相違についてまとめたものである。ア～ウに入る最も適当な語句を、ア・ウは三字で、イは五字で本文中から抜き出して書け。

	浅い人	深い人
質問	表面的な部分にとらわれた質問しかできず、内容が深まることはない。	アなものに触れる質問ができ、質問者の考 えも深まり、聞く人も刺激を受ける。
教養	たくさん知識があっても、総合的に使いこなすことができず、単なる「物知り」な人にすぎない。	西郷隆盛のように多くの本を読み、教養を自分の中に取り込んで、イにまで生かせる人。
コミュニケーション	言葉を交わしているだけで、深い部分にある心理や感情の動きに触れることなく、表面ばかりを見ている。	相手の状況や感情、言動を瞬時に理解し、その場の文脈に応じた言葉をかけることができるウがある。

問二 本文中の そういった複雑な感情 とは、何を指しているか。十六字で本文中から抜き出して書け。

問三 この文章の特徴について説明した文として最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選び、その番号を書け。

- 1 前半で刺激のない質問をする人は浅い人と言いつつ、書き手の主張を効果的に伝えている。
- 2 ところどころで書き手の回想も交えることで、これからの現代人の生き方を印象づけている。
- 3 偉人の例を挙げることで、日本人と本の向きあい方が深くなると書き手の考えを明確にしている。
- 4 終始浅い人と深い人を対比させながら、比較的平易な言葉で分かりやすく書き手の意見を伝えている。

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

【ここまでのあらすじ】あれから三十年以上の月日が流れ、いまどこに住んでいるのかもわからない。ぼくが小学四年生の時、「わたし、この学校の番長になる」と言う、川村真琴という男の子っぽい名前の髪をチョンマゲみたいにした女の子が転校してきた。ある日、社会科見学の遠足で、担任が風邪で欠席のためクラス委員（ぼく）の責任がドーンと増えることになってしまった。

「運転手さん、バス、停めて！」

マコトの声が車内に響いた。

マコトは席を立ち、気分の悪い高野さんのそばまで行って「外の風にあたって休もう」と声をかけた。もちろん、そうならおツボネさまたちも黙ってはいない。

「あんたクラス委員じゃないでしょ、勝手に決めないでよ」「集合時間に遅れたらどうするのよ」「責任取りなさいよ」「一人のためにみんながメーワクしちゃうのって、おかしいじゃん」……そして、とどめを刺すように、おツボネさまが言った。

「降りるんだったら、歩いて行けば？」

マコトはゆっくりとおツボネさまを振り向いた。

「わかった。わたしと高野さん、歩いて行くから」

きっぱりと言った。

マコトは自分のリュックを背負い、高野さんのリュックも提^さげて、バスを降りた。ぼくと加藤さんが外まで付き合ったけど、マコトは「いよ、もう、あとは二人で行けるから」と笑う。

「ほんとにだいじょうぶ？」加藤さんが心配顔で聞いた。

「ヘーキ、ヘーキ、一本道だし、牧場まであとちよつとだもん」

マコトはピンクのリボンで結んだチョンマゲを揺らして、Vサインをつくる。「それより加藤さん、風邪キツイんでしょ、早くバスにもどってなよ」

おツボネさまたちへの文句は一言も言わない。逆におツボネさまのほう^①が気まづくなってしまうのか、「なにやってんのよ。早くしてよ。遅れちゃうよ」と窓からふくれつつらを出した。

ぼくと加藤さんは顔を合わせて、小さくうなずいた。しかたない。クラス委員はクラス全体のことを考えなきゃいけない。高野さんのこと

はマコトに任せて、ぼくたちはぼくたちの仕事を……。バスに乗り込む前に、マコトをちらっと振り向いた。

マコトはぼくの視線には気づかず、その場にしゃがみこんだ高野さんの背中をさすって「ゆっくり行こうよ」と声をかけていた。ふだんの態度はそつけないけど、意外と優しいヤツなんだな。

そういえば、パパもいつか言っていた。「いいか、ツヨシ。番長っていうのはケンカが強いだけじゃだめなんだ。誰かが困ってたら、それをしっかり助けてあげられるのが、いい番長なんだぞ」

②マコトって、やっぱり番長なんだな。ぼくは、クラス委員だけど番長じゃなくて……「困っている一人」と「みんな」のどっちを選べばいいのかっていうと、やっぱりクラス委員なんだから……。

バスが走り出した。

ジャンボが後を振り返って、「うわー、重たそうー!」と言った。

マコトと高野さんは二人並んで歩いていった。リュックを二つ背負ったマコトは、高野さんの肩まで抱いて、急な上り坂を一步ずつ、一步ずつ、一步ずつ……。

「すみません、停めて下さい!」ぼくは思わず叫んでいた。

急ブレーキをかけて停まったバスから、ダッシュで降りた。

このまま知らん顔してバスに乗りつづけているわけにはいかない。困っている一人だってその子を助けている一人だって、クラスの仲間なんだから、ぼくはそんな二人を放っておくなんて、やっぱり、できなかった。

全力疾走で二人のもとへ駆け戻った。バスを降りる時におツボネさまに言われた「カッコつけんなよ」の一言は、しばらく耳に貼りついていたけど、走っているうちに風が吹き飛ばしてくれた。

駆けつけたぼくを見ると、マコトは、ふーん、とうなずいて、高野さんのリュックを差し出した。

黙ったままだったけど、ほんの少し、マコトの顔はうれしそうに見えた。ぼくも、よけいなことはなにも言わない。無理やりしゃべっちゃうと、ぜんぶウソっぽくなりそうだから。

高野さんに「ゆっくり行けばいいから」と一言声をかけて、リュックを背負った。

歩き出すと、マコトはくちぶえを吹きはじめた。

メロディーは——わかった、これ、パパもときどき口ずさんでいる。ぼくが幼稚園に入るか入らないかの頃に流行った歌だ。『銀色の道』
っていう題名で、「遠い、遠い、はるかな道は……」っていうんだ、たしか。

ほくも、ついつられて同じメロディーをハミングした。

「知ってるの？」とマコトが驚いて聞いた。

「うん、……お父さんがときどき歌ってるから」

「そうなの？」マコトはもつとびっくりした顔になって、「わたしもお父さんに教えてもらったんだ」と言った。

あ、このタイミングいいかもしれない。

「あのさ……ウチのお父さん、今度、川村さんちに行きたいって言ってるんだけど、いい？」意外とすんなり言えた。

マコトはあっさり、「いいよ」と答え、「じゃあツヨシも一緒に来れば？」と付け加えた。

胸がドキツとした。だって、いままでは「中村くん」だったのに、いきなり「ツヨシ」なんだもん。

「ツヨシもいいところあるんだね、ちよつとだけ、見直してあげた」

マコトはフフツと笑って、「あそこ、見て」と道の先を指差した。

バスが停まっていた。

クラスみんなが手を振りながら迎えに来てくれた。

(重松清『くちぶえ番長』による。一部改変)

(注) おツボネさま：負けず嫌いで、意地悪で、ワガママで、いつも自分が主役じゃないと気がすまない女子のあだ名。

ジャンボ：クラスで一番大きい男子のあだ名。

問一 本文中に ^① おツボネさまのほうが気まづくなってしまうとあるが、それはなぜか。説明したものとして 適当でないもの を、次の1

～4のうちから一つ選び、その番号を書け。

- 1 マコトがおツボネさまに対して何一つ文句を言わないから。
- 2 おツボネさまが歩いて行くように言った張本人だから。
- 3 マコトが本当にバスを降りて歩いて行くことにしたから。
- 4 おツボネさまが自身の発言を反省し改善しようと思ったから。

問二 本文中に ^② マコトって、やっぱり番長なんだな とあるが、このときの「ほく」の心情として最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選び、その番号を書け。

- 1 番長であるマコトに逆らうことをやめ、マコトの言うように行動しようとする心情。
- 2 マコトは困っている人を助ける優しさを備えていると改めて感心する心情。
- 3 マコトの行動を手本にして、クラスのみんなから好かれようとする心情。
- 4 マコトのような行動を、クラス委員であるべくができていなかったと責任を感じている心情。

問三 本文中に「風が吹き飛ばしてくれた」とあるが、このような気持ちになれた根拠となる一文を、本文中より抜き出し、最初と最後の五字を書け。

問四 本文中に「ほんの少し、マコトの顔はうれしそうに見えた」とあるが、「マコト」の顔はどうして「うれしそう」だったのか。その理由として最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選び、その番号を書け。

- 1 ツヨシがマコトのことよりも、高野さんのことを優先してくれたから。
- 2 ツヨシがマコトのことを、理解してくれたと感じたから。
- 3 ツヨシがマコトのことを、番長と認めてついてきてくれたから。
- 4 ツヨシがマコトのことを、これで番長になれると確信したから。

問五 次の1～4のうちから本文の内容と合致するものを一つ選び、その番号を書け。

- 1 困っている人に自然に手をさしのべることができマコトの行動にほくはいつも戸惑っていた。けれどもバスの車中での出来事をきっかけにほくは自分とマコトを比較して自分に欠けているものに初めて気づく。そして次第にほくは、マコトという一人の人間にひかれていく。
- 2 人前では強がつて男の子っぽく見せているマコトだが、そのわがままで強引な性格のためにクラスの中では友達も少なく孤立しがちだった。クラス委員のほくは彼女の行動を見て見ぬふりができず、社会科見学の遠足で強引な行動をとる彼女を必死に制止しようとしたができずにいた。
- 3 クラス委員として責任を果たさなければならぬと気負うほくを、マコトは陰ながらいつも応援してくれていた。そのことに感謝するほくだったが、社会科見学の遠足の日のバスの車中での出来事をきっかけに、マコトがほくを応援してくれているのは勘違いだったと思うようになった。
- 4 クラス委員のほくに代わって、難しい仕事を次々とこなしてくれるマコトに、ほくは心から感謝していたが、心の奥底には、ほくよりもはるかに行動力に富む彼女に対して嫉妬する気持ちも存在した。そのため、バスから降りて一緒に歩いて行く間、ほくの心はずっとモヤモヤしていた。

四

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。句読点等は字数として数えること。

按察使の大納言の御女、心にくくなべてならぬさまに、親たち、かしづき給ふこと限りなし。この姫君の、のたまふこと、「人々の、花、蝶々と愛づるこそ、はかなくあやしけれ。人は、まことあり、本地尋ねたるこそ、心ばへをかしけれ」とて、万の虫の、恐ろしげなるを取りあつめて、「これが、成らむさまを見む」とて、さまざまなる籠箱どもに入れさせ給ふ。中にも、「烏毛虫の、心深きさましたるこそ心にくけれ」とて、明け暮れは耳はさみをして、手のうらにそへふせて、まぼり給ふ。

〔『堤中納言物語』による。一部改変〕

(注) 按察使：諸国の風俗習慣、国司の治績を見まわる職。 心にくくなべてならぬさま：奥ゆかしく、ありふれたものでない容貌。

かしづき給ふこと限りなし：大切に育てなされることはこの上ない。 はかなくあやしけれ：つまらなく奇妙だ。

本地：仏教語で、実体、本体。 籠箱：虫かご。 烏毛虫：毛虫の別名。 心深き：思慮深い。

耳はさみ：額髪を耳のうしろにかきやつてはさむこと。 忙しく働くときの身分の低い女のふぜい。 まぼり給ふ：じっと見つめなされる。

問一 本文中の 心ばへをかしけれ の読み方を、全て現代仮名遣いに直し、平仮名で書け。

問二 次の の中は、本文を読んだ佐藤さんと今井さんと先生の会話の一部である。

先生 この話の登場人物である「姫君」は、どのような人だと思えますか。そう考える理由を含めて、ペアで話し合ってみましょう。

佐藤さん 姫君は、少し変わった人だと思えます。それは、恐ろしそうな虫たちを籠に入れて飼うという、姫君の行動からいえると思えます。本来、彼女のような身分の高い人であれば、決してしないようなことをする点が、変わっているといえます。

今井さん なるほど。変わっている人だと思った点は私も同じですが、佐藤さんは行動に注目したのですね。私は、違うところに注目しました。Aの「烏毛虫の、心深きさましたるこそ心にくけれ」という言葉です。つまり、花や蝶といった人々が好きこのむものではなく、「()に奥ゆかしさを感じる」という姫君の言葉から、変わっていると思えました。

佐藤さん　　そうか。行動も言葉も、「B」ことが目的だったのですね。やはり、姫君は人とは違う、変わっているところのある人だといえますね。

先生　　二人とも、しっかりと内容を読み取ることができましたね。

(1) の中の 姫君の行動 を含む部分を、本文中からそのまま抜き出し、その初めの三字を書け。

(2) の中の A・B に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の1～4のうちから一つ選び、その番号を書け。

1	A	B	花、蝶やと愛づる
2	A	B	本地たづねたる
3	A	B	花、蝶やと愛づる
4	A	B	本地たづねたる

(3) の中の () に入る内容を、本文を踏まえて、十字以上、十五字以内の現代語で書け。

問三 姫君は恐ろしい虫たちを集めてどうしようとしているのか。解答欄の空欄部分に、本文を踏まえて漢字二字で書け。

五

【資料1】は生徒会では、毎年、生徒会が中心となつてボランティア活動を行っている。今年が高齢者施設への訪問を予定している。【資料2】は昨年高齢者施設を訪問した人の感想である。これらを読んで後の問に答えよ。

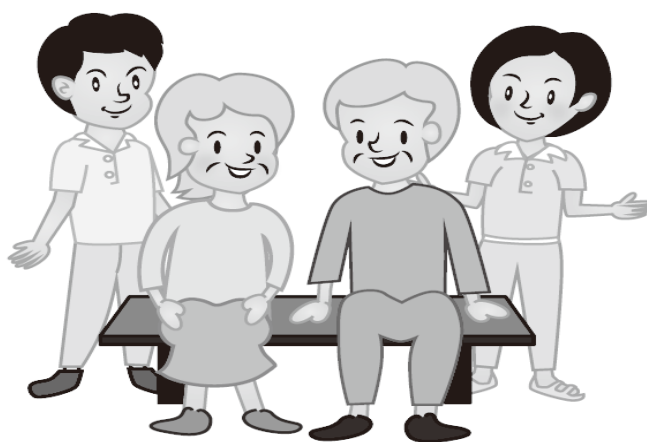
【資料1】

令和元年度 T中学校生徒会ボランティア活動内容

《活動場所》：F 高齢者施設

《活動目的》：高齢者に楽しい一日を過ごしてもらう。

《活動内容》：高齢者と触れ合う。



《高齢者施設を訪問した人の感想》



人は話を聞いてもらえたと
きうれしい気持ちになり、
自分のことを大事にされて
いると感じて安心するこ
とが分かりました。



どんな時でも、こちらが明
るく笑顔で接することが大
切だと思いました。



この体験を今後の活動や人
との関わりの中で活かした
いと思いました。

問 高齢者施設を訪問することにあたり、生徒会で【資料1】の《活動内容》「高齢者と触れ合う。」について、具体的な場面を想定し意見を
出し合うことになった。あなたはどのような意見を述べるか。次の**条件1**から**4**に従い作文せよ。

条件1 文章は、二段落構成とすること。

条件2 第一段落には、【資料1】【資料2】を参考にした上で、活動内容を具体的に書くこと。

条件3 第二段落には、第一段落で書いた内容の理由と、活動の際に注意する点や工夫する点を書くこと。

条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い十行以上、十二行以内で書くこと。